

やませみ 通信



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

東京農業大学教授濱野周泰先生の案内で明治神宮を視察



NO. 41

平成 31 年 3 月

〈平成 30 年度の活動〉

- 4月 市民の森づくり（植樹）
- 6月 総会
- 7月 「市民の森」下草刈り
- 9月 興津川クリーン作戦
- 11月 明治神宮の森視察
森林探検隊
- 3月 サイエンスピクニック

目 次

- 1 明治神宮 100 年の森づくりを学ぶ 興津川保全市民会議視察研修
- 3 「森林探検隊」に参加して
- 5 第 1 回市民の森づくり・第 2 回市民の森づくり・参加者感想特集
- 7 興津川クリーン作戦& 海洋ごみ啓発
- 9 豊かな海づくりは、豊かな山と川づくりから
- 10 第 1 回興津川水系流域委員会
- 11 「サイエンスピクニック 2019」

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

興津川保全市民会議 (S-GIT) 会員 森 みずほ

明治神宮の視察研修

明治神宮は、森づくりの模範として、また成功例として必ずと言っていいほど取り上げられます。都会の真ん中にあり、多くの人に親しまれ、外国からの観光客も多く訪れる場所です。人の手によって作りだされた自然に近い森の姿を自分たちの目で見て、興津川や周辺を取り巻く森林環境と比較することができました。

平成30年11月8日(木)の朝早く、私も浜松市から出発地の清水区役所に駆けつけ、視察に参加しました。

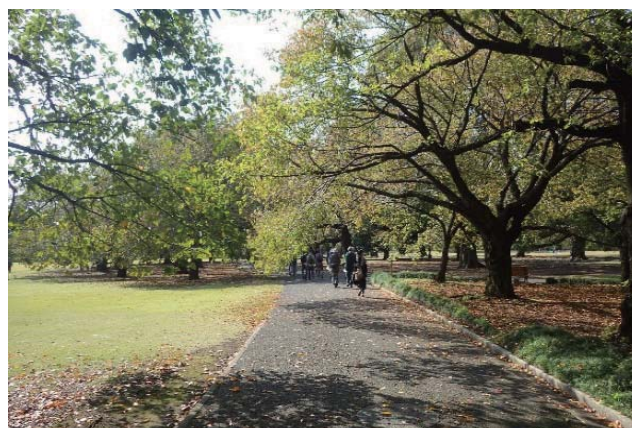
途中立ち寄った新宿御苑

朝早く、快晴の天気のもと清水庁舎を東京方面に向け出発しました。

そして、工事中的新国立競技場の脇を走り、東京オリンピックへ向けて準備が進められている賑やかな街中を見ながらまず着いた場所は新宿御苑。ここでは、各自自由行動ということで見どころマップを片手に散策しました。

プラタナス並木道は一面が落ち葉のじゅうたんになっていて、踏む時に鳴る音を聞いたり、持ち上げては撒いて楽しそうに遊ぶ子供の姿が印象的でした。

散策中に、台風被害のために切られたのでしょうか、伐根直径が50cm以上の丸太を見つけました。私は、どのように伐ったのかをチェーンソーの痕から想像し、しばらく釘付けになっていました。



濱野周泰教授

今回の視察では、東京農業大学教授濱野周泰先生の案内のもと明治神宮を視察できたことで、とても貴重な経験ができました。明治神宮の森づくりについては、創建100年が近いこともあり、さまざまな本が出されています。また、その成り立ちについてテレビでも見る機会が増えたように感じます。濱野先生は、テレビでも紹介されていますが、明治神宮に対する第一人者で、研究のみでなく、森の維持管理から育成まで、全般に係わっているそうです。

そのため、先生のお話は、森の成り立ちのみでなく、参道の作り方と見え方、周辺住民や国との調整、最近の気候に対しての植物の成長への影響など多岐に渡り説明してくださいました。

また、行く先々で、参加者からの質問に対しても丁寧に説明していただき、参加された方たちの満足度もさらに高いものになったと感じました。





明治神宮の大鳥居

大鳥居は柱の太さが直径 1.2m、重さが 13 t、木造で、日本にはこの大きさのヒノキはなく台湾から持ってきた…といった話まではよく聞くとお思います。それのみでなく、先生の説明によると、台湾のヒノキは、日本のヒノキとは違って、乾燥で割れた隙間から甘い木の香りがする・・・ということでした。先生に「さぁどうぞ」と言われ一行は鳥居に群がりその匂いを嗅ぎました。おそらく先生の案内が無ければ見ることが出来なかった光景だったと思います。



明治神宮の地形と植生

先生の説明により、樹の成長を優先して地形を削っていること、1本立ちと株立ちのクスノキの違い、樹の根ばりから土の固さがわかるなど、何も知らなければ通り過ぎてしまうようなポイントに奥深いストーリーが隠されていたことを教えていただきました。地形をそのまま生かし地形に合った樹種を選定すること、新たに入ってきた植物、木から落ちた落ち葉や実は除去せずそのままにしておく。そういったストーリーの根底には必ず、神社林としての在り方、自己循環型の森づくりに対する管理を行うという考え方を徹底している姿勢に感動しました。

一日を終えて

明治神宮の森は、ヒートアイランド現象や自然再生に関する課題を解決するひとつの事例として今回見て回ることが出来ました。

興津川もまた川単体ではなく、流域の山や森、海や人の活動が関わっているのだと改めて実感しました。この多様性がどのように絡み合うことで、自然や人の生活を豊かにしていくのかなど、思いが膨らむ一日となりました。



「森林探検隊」に参加して

興津川保全市民会議 事務局員 西野 真理恵

自然学園で学んだこと

北海道出身の私は小学生の頃、休日に活動する自然学園の会員でした。自然への関心を深め、その中でいろいろ学び、逞しい子どもを育てるという願いを掲げたその学園の中で得たものは、今でもしっかりと自分の記憶に刻まれています。

モノや情報が溢れている現代。母親になり、我が子たちには自分で考え判断し、行動できる強さを持って欲しい、同時に優しさや思いやりの気持ちを常に忘れないで欲しいと願っています。

「森林探検隊」へ家族で参加

家族で参加した「森林探検隊」は、そんな私の気持ちに寄り添ってくれるようなイベントでした。

沢登りでは、子どもたちの本当に生き生きとした表情を見ることができ、とても幸せな気持ちになりました。

沢登り、山登り

道の険しい所ではスタッフの助言を聞きながら、真剣な顔で手も足も使い自分の身を守ろうとしている子どもたち。あるお母さんが、「正直、沢登りでは弱音を吐いて嫌がるのではないかと不安だった。子どもの成長をこういう形で見ることで嬉しい。」と言っていました。「カニがいたよ。」「葉っぱの色が綺麗だね。」「空気が美味しいね。」と、私も子どもたちと会話をしながら沢登りを楽しみました。

ロープスライダーと木の伐採

山の中でロープスライダーをしたり、迫力ある木の伐採を見てみんなで拍手をする頃には、子どもたちもすっかり仲良しになっているようでした。はじめはちょっぴり緊張気味だった参加者のみなさんの間に、笑みが増える嬉しい瞬間です。



美味しかった猪鍋

自然の中で、みんなと一緒に食べた猪鍋は忘れられない美味しさでした。山の中で色々体験し学んできた子どもたちが嬉しそうに食べる姿が微笑ましく、改めてこの美しい自然を可能な限り守って継承していきたいと思いました。



ノコギリで竹工作

普段、なかなか触れる機会のないノコギリを使っでの竹工作。ケガをしないよう、鋸の使い方を説明する指導員の話をしっかり聞いていた子どもたち。竹がいろんな形に変身することに驚いているようでした。中でも、大人気だったのは竹の弓矢。周りの状況を確認しながら譲り合って、的当てを親子で楽しんでいました。

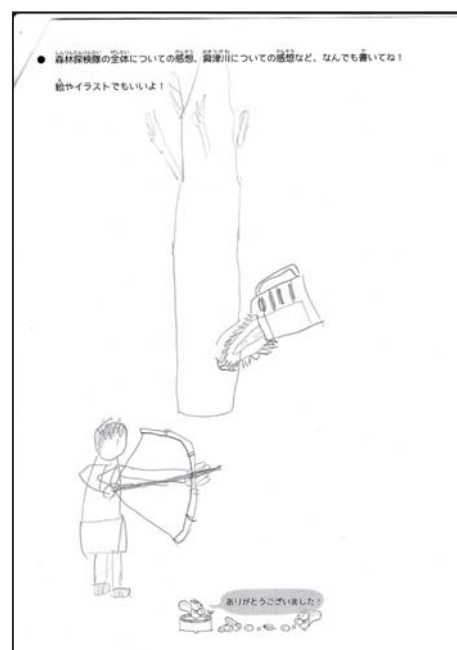
この日の我が家の夕食時は、もちろん「森林探検隊」の話で盛り上がりました。「沢登り、よく頑張ったね。楽しかった？」と聞くと、我が子たちの口から次々と感想が出てきます。大人の視点からはなかなか気が付くことができない景色や、イベント中の子どもたち同士の会話も聞くことができました。



イノシシのわなの檻

参加者の皆さんの感想

今回参加いただきました皆様からも沢山の感想が寄せられました。少し紹介させていただきます。



最後に・・・

今年度も、無事に「森林探検隊」を開催することができました。参加者の方々、事業委員及び関係者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

第1回市民の森づくり・第2回市民の森づくり

第1回市民の森づくり・第2回市民の森づくり

4月21日(土)・7月14日(土)において市民の森づくりを行いました。

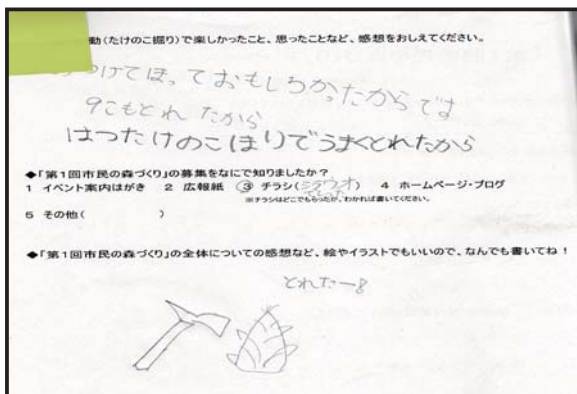
植樹から下草刈り、整地など1年を通して森づくりを体験することができる「市民の森づくり」を事業委員及び事務局を中心に、静岡みどり情報局「S-GIT」の協力を得て毎年実施しています。

ここでは参加いただいたみなさんが、「市民の森づくり」というイベントを通して、どんなことを思い感じたかを紹介します。

《参加者の感想》

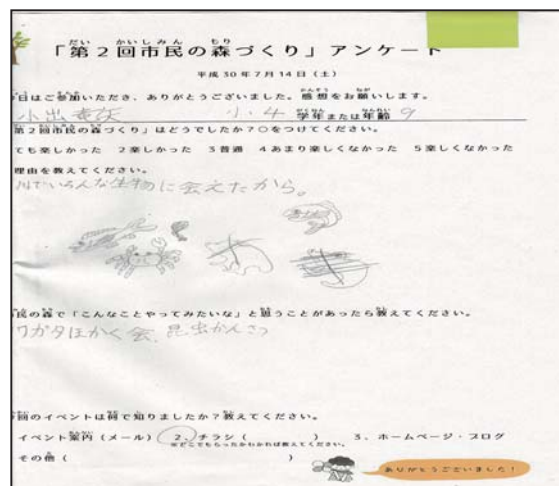
■第1回「市民の森づくり」で楽しかった・よかったことは？

- ・たけのこを探すのが楽しかった。
- ・植樹もたけのこ掘りもはじめてのこと。とても良い体験ができた。
- ・自然の中で活動できたこと自体が良かった。
- ・何度も参加しているが、過去3年分の自分が植樹した樹の成長を見るのが楽しみ。



■第2回「市民の森づくり」で楽しかった・よかったことは？

- ・全部楽しかった。
- ・カエル・魚・おたまじゃくし等いろいろな生き物をとった。
- ・嶺の子山荘までの道のりは大変だったけど、到着したときの喜びがあった。
- ・山を登って、上から見た景色が良かった。



**** 保護者からの回答で多かった感想は ***

- ・子どもと協力して良い時間を過ごすことができた。
- ・子ども達が積極的に活動している姿を見ることができ、嬉しかった。
- ・鎌やのこぎりを使ったりするのは経験させたくても、なかなか機会がないので、ありがたかった。
- ・子どもと一緒に活動をして、良い汗をかくことができた。
- ・みんなで一緒に食べるお昼も、楽しみのひとつ!!

お昼の竹の子汁とやきそば

事業委員が心を込めて用意するお昼にも、たくさんの嬉しい回答が寄せられました。



■これからの「市民の森づくり」に対して

「100年の森づくり」をスローガンに掲げている「市民の森づくり」。

参加者の「市民の森でこんなことやってみたいな」という回答を振り返りながら、これからも参加者とともに森を守っていきたいです。

■市民の森で「こんなことやってみたいな」と思うことがあったら教えてください。

- ・ブランコを作って遊んでみたい
- ・イノシシやシカの燻製づくり
- ・お昼にバーベキューをするのも楽しそう



興津川クリーン作戦&海洋ごみ啓発

興津川保全市民会議 静岡市役所 環境創造課 伊藤 晃伸

市民協働によるクリーン作戦

興津川保全市民会議では、市民の貴重な水源である興津川を保全するために、毎年9月上旬に興津川クリーン作戦を実施しています。

興津川保全市民会議と静岡市の共催により、地元の皆様や、学校、企業、市職員が協力して流域の10会場で一斉清掃活動を行うイベントで、例年多くの皆様にご参加をいただいています。

今年度は平成30年9月9日（日）に行われ、残暑厳しい中ではありましたが、快晴に恵まれたこともあり、約900人の方にご参加いただきました。



両河内中学校前の開会式



ごみの回収量は減少傾向にあり、開会式を行った和田島の会場では、一斉にごみを探し始めるも、なかなかごみが見つからず戸惑ってしまうほどでした。毎年参加している方にお話を聞くと、「十数年前は大型家電や自転車などが捨てられているのをよく目にしたが、今では滅多に見かけなくなった」とのことです。環境保全に対する意識が高まっていることの表れにも感じます。しかし、少なくなったとは言え、今年度も、10会場で合計570kgのごみが回収されていることもまた事実です。多くの方が清掃活動に汗を流してくださる一方で、キャンプ適地では、バーベキューグリルがそのまま捨てられ、興津川河口付近では、他のポイントの数倍に及ぶ多くのごみが流れ着いていました。



各会場で集められたごみ

興津川は静岡市民の生活に直結している貴重な水資源です。清掃活動を継続して実施し、あわせて啓発活動にも注力していかなければならないと感じさせられました。

海洋ごみ問題について

今年度のクリーン作戦では、これまでのごみ分別に加えて、プラスチックごみの分別、回収を行いました。

最近、「プラスチックごみ」や「海洋ごみ」という言葉を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。まだ未解明な部分も多いですが、陸地や河川に捨てられたプラスチックごみが海へ流れ着き、分解されずに海底へ沈んでしまう、魚が誤って食べてしまう、海流に乗って遠くの国の海岸へ流れ着いてしまうなど、海の生態系を脅かす問題として心配されています。

これらの「海洋ごみ」は、元は1つのごみでも、海を漂流する中で多くの破片となっていく、特にプラスチックは細かくなっても自然の中で分解されることがないため、回収することが難しく、より多くの生き物が誤って飲み込んでしまうこととなります。サイズが5mm以下の微細なプラスチックごみは「マイクロプラスチックごみ」と呼ばれ、特に自然環境への影響が懸念されています。

軽い気持ちで川に投げ捨てたごみが長い間海を漂い、多くの生き物を苦しめることになるかもしれないのです。

わたしたちにできること

世界規模では、海洋ごみを解明すべく多くの調査が行われていますが、わたしたち一人ひとりにできることは何でしょうか。

まずは、家庭から出るごみを減らすことです。エコバックを使用したり、詰め替えの商品を購入したり、使い捨ての習慣を見直し、普段の生活から発生するごみを減らすことが重要です。

次に、自分が出すごみに責任を持つことです。山や川、海で遊んだ後のごみは必ず持ち帰り、ポイ捨ては絶対にしないことです。当たり前のことですが、その当たり前ができていない人がいるものです。自分だけでなく、周りの人にもごみを捨てさせないようにできれば、少しずつでもごみは減っていくはずですよ。

最後になりましたが、厳しい暑さの中、清掃活動にご協力いただいた多くの皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後も興津川保全市民会議と静岡市の環境保全活動にご協力をお願いいたします。

海洋ゴミについての講演会開催

興津川保全市民会議では、令和元年度の総会のあとに、東海大学海洋学部海洋科学博物館の学芸員伊藤芳英先生の講演会を行います。

－講師プロフィール－

静岡市の東海大学海洋学部博物館を拠点として活動する。調査・研究に関する活動の範囲は高山から海洋へと幅広く、その成果を博物館の展示や教育活動を通じて発信。1999年から、社会教育や学校教育の機会を活かし「海洋のゴミ」に着目した環境教育を推進。博物館では体験学習プログラムとして「警鐘を鳴らす深海魚・ミズウオの解剖」や「海岸漂着物の観察」を実施している。

【専門】博物館と学校教育の連携、環境教育、海洋浮遊生物

【所属学会】日本環境教育学会・漂着物学会・日本古生物学会

【委嘱】環境省・自然公園指導員、静岡県・高山植物保護指導員、静岡市・環境教育推進会議委員



豊かな海づくりは、豊かな山と川づくりから

事業委員 池田 俊美

命の水の興津川

清水区の命の水の源は興津川です。水道の蛇口を開ければ飲める水、当たり前のように思いますが、ひとたび地震や大規模停電、また、河川の氾濫等による災害のため水道水の使用ができないとなれば、給水等に頼らねばならなくなり、初めてその大切さを知ることとなります。

興津川保全市民会議では、川の水質保全に20数年間取り組んできました。しかし、最近アユ釣りをする者からみると河川の状況が変わってきていると感じます。昔から釣り人の間の話で「大雨が降っても興津川、藁科川は回復が早いので、2、3日も経てば釣りができる」と言われてきました。以前は、山の保水能力、川の浄化作用が早くすぐに水が澄みましたが、今は回復力が少しずつ落ちているように感じます。回復能力が低下した両河川に共通しているのは「川が目詰まり現象」です。これは、山からの土砂等により川の中にある大きな石は埋まり、小砂の層が増大し、浸透能力も低下しているのです。つまり、山の手入れが十分に行われておらず、荒れ始めているからではないでしょうか。このような河川からは、水量のみならず、もう一つの大事な役割である、源流域、支流河川から栄養の豊かで清らかな水が供給されなくなっているように感じます。

山を整備し、栄養のある豊かな水を海へ

近年【桜エビ異変】してと、不漁や資源保護の理由で禁漁へ、と新聞紙上で取り上げられています。その原因が、川の水質の悪化にあるのではないかと、水質調査を富士川、早川、蒲原の日本軽金属蒲原工場の放水路などをはじめ各河川で行われていると聞きます。そのため、「川の水質」が各河川で注目されています。

川の水と海とは重要な関係があります。今は、河川から放出される水の中に、桜エビの不漁の原因となる悪い養分があるのではと言われていますが、本当にそれが原因なのでしょうか。

本来、河川は海へ栄養豊かな水を供給する源であり、これまでもずっとその役割を果たしてきました。

岩手県の「カキ」の養殖業者の人々は、カキにとって、山、川からの水は、カキへの大切な栄養源であるとして、山の整備、植林、間伐等に取り組み、美味しいカキの養殖に努力しています。

市民会議では、川のセミナー、アユ釣り教室、植林、間伐、森の探検等、山や河の環境を守る啓発活動を続けてきています。しかし、静岡県の漁協さんは、山や川への関心は薄く、山の整備を積極的に取り組んでいるようには見えません。ぜひ、海の漁協さんにも海への栄養源の供給元である山と川の保全活動に参加してもらいたいと思います。

緑豊かな山から栄養分を蓄え海に流れ出る興津川（立花橋付近）



興津川保全市民会議事業委員長 望月誠一郎

静岡県静岡土木事務所による「興津川水系流域委員会」が開催されることとなり、その委員の1人として私が指名されたことから、平成31年3月15日の第1回委員会に出席しました。

委員会設立の経緯

前回の興津川水系河川整備計画は、平成14年6月に、布沢川生活貯水池の建設を整備内容に位置づけてされましたが、平成22年に国土交通大臣により、「ダム事業の検証に係わる検討について（布沢川生活貯水池）」の要請があり、静岡県事業評価監視委員会の審議の結果、平成25年1月に布沢川生活貯水池の建設の中止が決定しました。そのため、整備計画の内容が変更されたままであることと、計画策定から16年が経過していることから、今後の具体的な河川整備や維持管理の内容について検討するものです。

興津川の特徴と整備計画の趣旨

興津川は、大部分が山地であり、源流から急勾配のまま河口まで達しており、河川の氾濫しやすい自然条件を有しています。そのため、昭和54年10月の台風20号をはじめ、昭和58年8月下旬の豪雨、9月下旬の台風10号、平成26年10月の台風18号などにより、地域の安全・安心を脅かす浸水被害が発生しており、水害に対する安全性の向上が望まれています。

その一方で、社会環境等の変化に伴い、地域住民の良好な環境を求めるニーズが増大し、河川に多様な自然環境や潤いのある生活環境の場としての役割が期待されています。

興津川流域は、川とともに歴史を重ねてきた地域であり、生活に密接なかかわりを持っています。そのような背景を踏まえると、河川整備計画は、「治水」「利用」「環境」が調和し、また、「興津川らしさ」を尊重したものであることが必要です。

計画策定の委員には、住民の代表者や様々な分野の専門家からなる「興津川水系流域委員会」を設立して、策定するものです。

第1回「興津川水系流域委員会」

第1回「興津川水系流域委員会」は、最初に、興津川の河口から中流そして上流域まで、現在の河川の様子を見ると共に治水事業、利水事業などの取り組みについて説明を受けました。

興津川的主要な河川改修事業としては、昭和57年より、局部改良事業として、中河内川合流部付近において合流形状の改良、取水堰の切り下げを実施し、下流部においては、昭和53年より地震対策河川事業として、東海地震の津波の襲来に備え、河川堤防の強化及び護岸の整備を実施してきています。

また、興津川水系の現在の許可水利権は2件で、これらの最大取水量の合計は約1.349 m³/sとなります。このうち1件は静岡市水道用水として1.272 m³/sが承元寺および清他の2箇所から取水され、静岡市清水区（旧清水市）の重要な水源となっています。他の1件の許可水利0.082 m³/sは、農水用水として利用されています。

過去には、降雨の少ない冬期において承元寺堰において水道用水の不足もありましたが、最近の10カ年の平均濁水流量は約1.1 m³/sで、取水に問題は生じていないとのことでした。

委員会

午後の委員会では、マリンビルの会議室において、整備計画の趣旨や現状についての説明があり、委員からの意見交換が行われました。今後の2回の委員会を通じて新たな整備計画を平成31年度中に策定する予定です。



改善整備された承元寺取水堰の説明を受ける委員

「サイエンスピクニック 2019」への参加

3月9日(土)、10日(日)に静岡科学館る・く・るで開催された「サイエンスピクニック 2019」に今年も参加しました。

サイエンスピクニックは、科学を楽しみ、その探究と普及に取り組む市民グループ、ボランティア、高校の科学部、生物研究部、銀行、ガス会社など、県内外から多様な参加団体(出展者)により開催されました。

市民会議のブースでは、竹の花瓶づくりと可愛いドングリ人形づくり

今回は、ブースの位置が会場の角にあり、存在感がなく、最初は参加者が少なく呼び掛けに苦戦しました。しかし、作業台のレイアウトを変えてからは、多くの人に参加してくれ、一緒に竹を加工した花瓶づくりやドングリに絵を描いた人形づくりをして楽しく過ごしました。また、市民会議の活動を紹介するパンフレットを配布し、PRを行いました。



市民会議の活動に協力してくれる方 お試し参加募集中です!

活動は、この「やませみ通信」に紹介しているような内容です。

竹の子鍋、しし鍋、流しそうめんづくり、山での植林、川の学習や遊びの活動支援、アユ釣りや山仕事が好きの方など、特技のある方、ない方大歓迎です。

興津川保全市民会議の会員になり、「命の水」を守るため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 (株)地域デザイン研究所(望月)
発行日 平成 31 年 3 月

興津川保全市民会議事務局

(静岡市環境創造課内)

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-221-1492

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1



ホームページもご覧ください <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

平成 30 年の夏は、各地で気温 40 度という声が聞こえるとても暑い夏でした。市民会議の除草刈りではその暑さに苦勞し、突然の雨でアユ釣り教室や川のセミナーが中止になるという残念な夏になりました。